

令和6年度

板野南小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 話す・聞く、書く、読む力を高める。(目的意識を持ち、筋道を立てて自分の考えを伝える。)
- 主体的に学習に取り組むことができる児童の育成。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 樋谷幸司	委員 ・教頭 平尾恭子 ・教務主任 樋谷幸司
	・特別支援教育コーディネーター 工藤幸、北尾教子 ・研修主任 寒川かおり ・人権教育主事 寒川かおり

校長

吉野 育也

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

研修の機会を生かして、取り組み状況について報告する場をもつ。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題や決まった課題にまじめに取り組める児童が多い。 ●四則計算・漢字の読み書きなどの基礎基本的な学習の定着及び語彙力の乏しさが課題である。	・基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることができる。 ・語彙数が増え、目的に応じて、文章の内容や意図を正確に読み取ることができる。	・漢字・計算の反復練習をし、定期的に確認テストをする。 ・国語辞典やタブレットを効果的に活用し、語彙力を高める。(3年生以上) ・大切な言葉にラインを引かせることで、文章を読み取る手がかりとさせる。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを持ち、ハンドサインを使って意思表示ができる児童が増えてきている。 ●文章題の読み取りが弱く、何を解いているのかわかっていない。 ●グループ活動になると、友達の意見を聞いて考えをまとめたり修正したり新しい考えを生み出したりすることに課題がある。	・問題の意図を理解し、正確に文章題を解くことができる。 ・自分の意見を持つと共に、対話を通して、相手と交流することができる。	・スピーチの時間を設け、文の構成や話し方の話型を意識させる。 ・物語文や説明文を読む機会を設けると共に、反復的に問題を解く。 ・ペアやグループ活動など様々な学習で、ねらいを明確にした対話の場面を設定する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○最後まであきらめずに、学習に前向きに取り組む児童が多い。 ●自ら課題や問題点を見つけたり、考えたりしようとする意識が低い。 ●正確・丁寧に取組まず、字が雑になったり、計算ミスが多くなったりする。	・めあてを持って学習に取り組み、自分の学習の状況をしっかりと振り返ることができる。 ・一つ一つの課題に丁寧に取組むことができる。	・めあてを意識した振り返りの時間を設け、振り返りの視点を提示する。(振り返りカードを活用) ・家庭学習や学力アップタイムなどを中心に、じっくり丁寧に時間をかけて取り組める時間をつくる。			

令和6年度 学力向上ロードマップ

